

# 2年生 海外研修 (シンガポール・台湾) へ

## 開邦通信

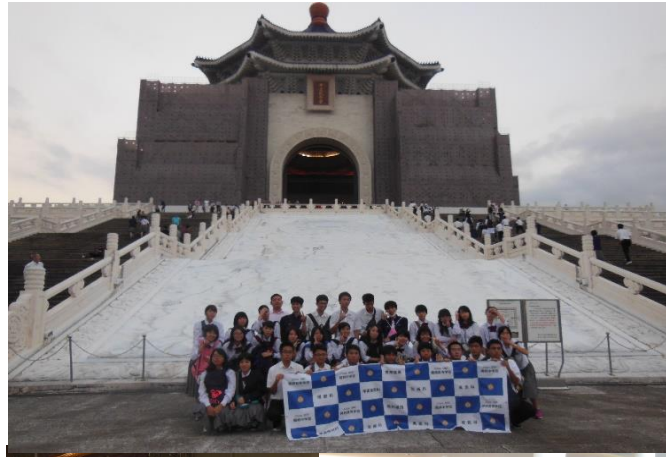
第9号

平成29年12月  
沖縄県立開邦  
中学・高等学校  
校長 上原 昇



本校2年生151名が、11月7日～11月11日まで、台湾とシンガポールをめぐる海外研修に出発した。この研修旅行は、学術探究科の設置を機に、国内の修学旅行から、海外への研修旅行に変更したものである。グローバルに活躍する人材の育成をめざし、知識を活用して課題を解決する新しい学力観のもと、開邦高校では、広く海外へ視野を広げる機会を与えます。

台湾では、市内観光のほか、留学中の大学生との交流があり、シンガポールでは、企業訪問、現地高校生との交流、市内観光などがあり、大変有意義な研修だったということです。



## 駐日アメリカ大使、EUスロベニア大使が来校

11月13日(月)、駐日アメリカ大使のウィリアム・ハガティ氏が本校を電撃訪問し、高校生とランチをともにして歓談した。同行した沖縄総領事の3人もそれぞれグループに入り和やかに交流してくれた。

ハガティ氏は、トランプ大統領に任命される前は民間企業の役員として2年間日本に滞在したこともあるということで、割りばしを器用に使って「ほっか弁」を召し上がっていた。また、iパットを持参して家族の写真を見せ、自己紹介をしてくれた。本校には留学帰りの生徒も多く、簡単な英会話はみんなできるので、ランチタイムの間中会話が途切れることがなかった。

11月10日(金)には、外務省の「EUがあなたの学校にやってくる」という事業で、在日スロベニア大使が本校を訪れ、講演してくれた。



### 「大使の来校」

開邦高校は県立のトップ校で英語科があるので駐日アメリカ大使の親善訪問が実現したらいい。こちらから要望できるものではありません。当日まで内外に極秘で、SPが7名も配置された。しかし、生徒はじつに楽しそうに歓談し、大使もフランクに応じてくれた。もう一つ、駐日スロベニア大使のEU講演では生徒から質問が矢のようにくり出され、しかもその半分は英語による質問だったので、通訳の方も感心していた。芸術科の作品展もふくめ、11月は本校生徒の頼もしさを感じました。



## 大学入学共通テスト 試行調査実施

平成32年から実施される新しい入試制度「大学入学共通テスト」の試行調査(プレテスト)が11月に実施された。本校は「数学ⅡB」と「国語」(14日)の2科目、県から依頼を受けて実施した。

新しい入試は、今の中学3年生が大学受験生となるときから実施される。そのため、本校ではこれまで職員会議を3回開き、何が、どう変わるのか詳細に把握し、本校の対応を検討してきた。

学校としては、今回の試行調査の問題をしっかりと分析し、今後の指導体制を強固にする予定である。



## パレットで展覧会開催 芸術科



11月14日～19日まで、パレット久茂地の6階市民ギャラリーにて、本校芸術科美術コースの作品展が開催された。

この展覧会は、生徒がこの半年間で制作した作品を広く市民に発表するもので、毎年この時期に開催されている。

会場には、保護者はもちろん、買い物ついでの市民も多数訪れ、高校生を激励してくれました。

## ようこそ先輩 特設授業に15名



11月2日(木)、創立記念「特設授業」に、社会人として活躍している本校の卒業生15人の職業講話を実施した。大学へ入るための勉強ではなく、将来の職業を視野に入れた勉強の必要性を再確認しました。